

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保
事業名	
通学路安全確保事業	
地域の課題（背景）	
・ 少子化の進行に伴い児童数も少なく、下校時も目立たないことから、交通事故が懸念される。 ・ 不審者による中学生以下の子どもに対する声掛け事案が、県内で年間500件以上発生。県下での発生状況の特徴から、下校時見守りの大切さがうかがえる。 女子に対するもの64％ 路上での発生85％ 登下校時間帯に集中77％（下校時は登校時の2.8倍）	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・ 下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続するとともに、通学児童の見守り活動を行い、安全・安全を確保する。 ・ スクールガードボランティアによる下校時の見守りを継続する。 見守りは、できる人ができる範囲で、登校日に実施する。 原則として毎月第1・第3水曜日を、重点活動日として活動する。 重点活動日は、下多度小学校と調整して決定する。	
自助(自分でできること)	
・ 地域住民が、児童を見かけたら登下校時のみならず声掛けと、挨拶活動を行う。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ 駐在所もなくなり防犯面で不安、パトロールカーなどにより地域の巡回を希望する。	

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題

子どもたちの集う機会の創出

事業名

- ・子どもの活動を豊かにする事業

地域の課題（背景）

- ・人口減少、とりわけ児童の人数は急速に減り続けている。
- ・子どもたちの戸外での遊ぶ機会が少なく、地域住民との交流する機会がほとんどない。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- ・子ども 保護者 子ども会 学校と連携し、楽しい遊びを通じて地域の良さを再確認してもらう。
- ・講師を招き生物の多様性を勉強し、外来魚の駆除事業をする。
- ・だんだん公園キャンプ場でバーベキューと星空観察会を実施する。
- ・お寺を利用した地元歴史の勉強会と縁日を実施する。

自助(自分でできること)

- ・学校、子ども会と連携して事業を展開し、多くの児童の参加を呼びかけを行う。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・事業のPR、助言をお願いしたい。

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重点課題	通院や買い物等、外出手段のない高齢者の支援
事業名	
高齢者移送サービス事業	
地域の課題（背景）	
下多度地区は、医院、商店、金融機関、駐在所などが次々に姿を消し、コミュニティバスもないため外出手段がなく、通院や買い物に困窮する高齢者が多い。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・ 高齢者のセーフティネットとして、高齢者送迎サービス事業を継続実施する。 ・ 継続して、協力会員の募集を行う。 ・ 協力会員の負荷軽減のため、適宜利用会員に対して節度ある利用の呼びかけをする。 - オンデマンドバスの活用 - 親族や知り合いへの応援要請 - 養老鉄道の利用 - 特定ボランティアへの集中回避 など	
自助(自分でできること)	
・ 親族に応援を依頼する。 ・ 市内は、オンデマンドバスを利用する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ オンデマンドバスの活用推進（利用実態の紹介や利用しやすい裏技など）	

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重点課題

高齢者の、ちょっとした困りごとへの支援

事業名

「ちょこっとお手伝い」事業

地域の課題（背景）

- ・高齢化の進展と共に、生活全般にわたり支障をきたす場面が多くなると思われる。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- ・高齢化に伴い、お年寄りが自分でできなくなった作業を支援する。
【対象】
民生委員の見守り対象世帯とする。
1時間程度でできる比較的簡単な作業
- ・依頼内容は草刈り、庭木の手入れに集中している。
他にも困りごとがあると思われるため、民生委員を通じてリーフレット等で、隠れたニーズの顕在化と利用を促進する。

自助(自分でできること)

- ・ゴミ出し等、ほんのちょっとした手助けは、お隣などご近所の住民パワーを活用する。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・従来通り、年1回の民生委員との巡回の機会に、事業の紹介をお願いする。

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題

- ①住民同士の交流機会が少ない
- ②高齢者の交流する機会が減少している

事業名

しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）

地域の課題（背景）

- 1) 自治会単位の交流事業は実施しているが、一段と減少して地区全体の交流の場を創る事がより一層必要と思われる。
- 2) 子どもをはじめ、各年代が一堂に会して集まる機会や顔を合わせる機会がないと思われる。
- 3) 地域全体で集まり、会話し、笑い楽しみ、顔見知りになる事で、地域交流が深くなると考えている。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- 1) 地域交流会の開催 ： 『しもたどフェスティバル』の開催
- 2) 開催日 ： 令和7年8月14日（木曜日）に開催を計画
- 3) 会 場 ： プラザしもたど（駐車場全面 + 南濃コミュニティーセンター含む全館）
- 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加わり、部会の活動を実施する。
 - ①『ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ・スポーツ吹矢』等を企画して実施する。
 - ②新規イベントを企画検討する。
- 5) 自治会・中学校・小学校等に周知して、協力を要請する。
- 6) 中学生・小学生等、各種団体・個人へ、参加を募る。
- 7) 各種感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。
- 8) 真夏の開催で最近の危険な暑さのため、スタッフ・参加者年齢を考慮した暑さ対策を検討して実施する。

自助(自分でできること)

- 1) しもたどフェスティバル実行委員会に計画立案を提案し、実行委員会に加わって活動する。
- 2) 地域の皆さんと共に、常に新たな企画を検討して、積極的に取り組む。

公助（行政や社協に依頼すること）

- 1) 下多度自治会をはじめ、中・小学校等へ協力をお願いして参加を募る。
- 2) 開催についての後援・場所の許可・広域広報等の協力を、海津市・教育委員会・市社会福祉協議会等へ願います。

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重点課題

防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化

事業名

啓発活動による防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化

地域の課題（背景）

- ・南海トラフ大地震の防災対策推進指定区域内にあり、大規模災害が危惧される。
- ・養老山地の東裾野の扇状地にあるため、集中豪雨や台風による土石流が懸念される。
- ・以上の危惧や懸念に対し、防災意識や各家庭における備えが不十分である。

令和4年2月に実施した防災アンケートの結果

(防災意識や各家庭の備えに関する大半の項目が、100点満点の10点台～30点台と極めて不十分な値であった)

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

○自主防災組織への働きかけと提案

○啓発活動の推進

- ・防災かわら版 → 2か月に1回発行
- ・防災ポスター → 3か月毎に更新
- ・研修会の開催

○避難所の開設、運営方法の勉強会

自助(自分でできること)

- ・「自分の身は自分で守る」→ 地域住民自身による「事前の備え」
- ・「事前の備え」= (家屋耐震化、家具転倒防止、ガラス飛散防止、感震ブレーカー設置、備蓄)

公助（行政や社協に依頼すること）

- ① 住民に対する「事前の備え」の啓発
- ② 自治会に対する「事前の共助」の推進
「事前の共助」とは、自治会による「事前の備え」の啓発・促進・支援活動

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題

高齢者の交流機会が少ない

事業名

広域サロンの開催

地域の課題（背景）

- ・各自治会区域で行われているサロンも、すべての自治会で行われているわけではない。
- ・各自治会区域で行われているサロン間の交流がない。
- ・現在行われているサロンでも参加者が減少傾向にある。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- ・下多度地区全体を対象にする「しもたどサロン」を開催する。
- ・地域の多くの高齢者の集いの場になるよう「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて開催する。
- ・自治会長会や、自治会区域で行われているサロンを通じて、参加の呼びかけを行う。
- ・お弁当を用意し、皆で会食ができるようにする。
- ・出し物は、昨年のように参加型の取り組みを検討していく。
- ・リーフレットをつくり、自治会毎に集約をお願いするとともに、地域のサロンでも参加を呼びかけをお願いする。
- ・自治会との連携もしっかりと取り、内容等も相談できるようにしていくことを検討する。
- ・他地区の活動を参考にする。

自助(自分でできること)

- ・自分の知り合いに参加を呼び掛けて貰う。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・市社協には、他地域の活動などを参考に助言をお願いする。